

2016年の“権力エリート”のクーデタ

【訳者注】これは、同じサイトで P・C・ロバーツが高く推奨しながら論じているように (<http://www.informationclearinghouse.info/46062.htm>)、また読者の反響の大きさに現れているように、実証的調査に基づいた、近未来のかなり正確なタイムラインだと思われる。ごく短いこのコメントが最も多く賛成を得ている——「Moon of Alabama よ、あなたはぴったり当たっていると思う。クーデタが準備されているようだ。これは末期症状の帝国主義支配階級だと私は思う。」この欄で、「狂気」「破れかぶれ」という言葉を私は何度も使ってきた。これがいよいよ終末を迎え、今はまさに、「末期症状の帝国主義」と言う以外にない。末期症状は哀れなものでもある。権力エリート（クリントン側）をここまで追い込んだのは、大統領選の敗北と、相次いで起こった「ピザゲイト」スキャンダルであろう。

国民を誘導して、より大きな（と思わせる）出来事に目を向けさせるためには、選挙操作もスキャンダル・リークも、すべて“ロシアがやった”、したがってトランプの勝利は無効だ、という理屈によるクーデタが、彼らには最善の方法だった。これは米政府が犯罪集団であることをはっきり示すものである。この馬鹿げた話を信じて、やはり悪いのはロシアとトランプだったと考え直す国民がどれだけいるかは、彼らには問題ではない。クーデタが成功しても、しなくても、アメリカ全土に危機的な空気が醸成されるだろう。そこへ持ち込むこと、そして反乱から戒厳令へというシナリオが、「彼ら」の狙いだと思われる。

Moon of Alabama

December 16, 2016, Information Clearing House

- ・次期米大統領を狙う、“権力エリート”のクーデタ計画が、現在進行中である。
- ・このクーデタは、ヒラリー・クリントンの陣営が、CIA や、議会のネオコン権力と連携して指揮している。
- ・計画は、CIA の「ロシアがトランプを勝たせた」というナンセンスを用いて、選挙人団を、トランプの不利になるように導くことである。そうすれば、この問題は議会に上がってくる。そこで、大多数のネオコンと、共和党の戦争屋グループは、大統領職をクリントンの方へ押しやるか、あるいは失敗すれば、トランプの副大統領マイク・ペンスを、王座にのし上げることができる。トランプ大統領の下では危なかった、これまでの二党制による戦争ビジネスは、存続できるだろう。
- ・このクーデタが成功すれば、米国内で激しい反乱が起こり、予測できない結果をもたらす可能性が大きい。

上記の項目は、これまでは一般的な想定にすぎなかった。全体的な計画が表に現れたことはない。しかし現在、この計画はかなり明らかなものになってきた。とはいえ、次に述べることには若干の想像が含まれている。

優先的な狙いは、トランプを大統領にしないことである。彼はあまりにも独立しているから、米支配サークルの中の、いくつかの中枢にとって危険である。新しい国務長官にティラーソン (Tillerson) が選ばれたことは、彼らの計画に好都合なだけである (予言: ボールトンが次官になることはないだろう)。ティラーソンは、彼らの安泰に資するもので、体制転換という冒険には向かない。この組織の中のトランプの敵を列挙すれば――

- ・ブッシュとオバマ政権の下で“中央暗殺局”になってしまった CIA (中央情報局) —— その予算の巨大な部分が、シリアとの戦争と、アフガニスタン、パキスタンなどでの、ドローンによる暗殺の継続に依存している。トランプのより孤立主義的な政策は、こうした敵対活動を終わらせ、関連した予算の受け皿もなくするであろう。
- ・兵器産業——彼らは、もしトランプのような大統領が、中東、その他へのアメリカの介入をやめれば、ペルシャ湾の大きな得意先への巨大な売り上げを、失ってしまう可能性がある。
- ・ネオコンと、(イスラエルの) リクード党支持者——彼らは、イスラエルの兵器としてのアメリカを期待し、シオニストの利益のために、中東を強奪したいと思っている。
- ・一般の戦争タカ派、軍部、それに“人道主義的介入主義者”——彼らにとって、世界最大の軍事力としてのアメリカの役割を、少しでも弱めることは、絶対にあってはならないことである。

現在の CIA 長官ブレナン——CIA の拷問計画のリーダー格で、オバマの顧問——は、クリントン/反トランプ陣営にいる。元 CIA ヘッドの Hayden と Panetta は公然とクリントン支持者で、拷問キングで元 CIA 副長官 Michael Morell も同じである。

このことから、CIA が、反ロシア・キャンペーンをリードしているのは不思議でない。彼らの今の課題は、ロシアの介入が、アメリカの選挙をトランプの方に捻じ曲げたという考えを、米国民に植え付けることである。その目的は、メディアや大衆の目に、しかしそれ以上に、選挙人団の選挙人の目に、トランプの勝利を不法なものに思わせることである。

CIA は、選挙中クリントンを応援した同じ主流メディアの、強い支持を受けている。(これは偶然によるものでなく、CIA のかつての“サダムの大量破壊兵器”キャンペーンを応援した、同じメディアでもある。)

民主党支持者でハーバードの法学教授でもある Lawrence Lessing は、選挙人を後押しして、自由な個人的なサポートは合法だと言ひ、選挙人団の決戦が迫っていると言っている。

https://www.washingtonpost.com/opinions/the-constitution-lets-the-electoral-college-choose-the-winner-they-should-choose-clinton/2016/11/24/0f431828-b0f7-11e6-8616-52b15787add0_story.html?utm_term=.cbf32612f403

<http://thehill.com/blogs/blog-briefing-room/news/310309-harvard-professor-says-gop-electors-are-close-to-blocking-trump>

万が一、自分の州の有権者によって、トランプに投票すべく決まった、37人の共和党選挙人が説得されて、トランプに投票することをやめたり、他の誰かに投票したりするならば、トランプは必要な 270 票を取れないだろう。大統領選挙そのものが、その時には、アメリカ合衆国下院から放り出されることになる。

<http://www.spokesman.com/stories/2016/dec/15/long-shot-bid-to-block-trump-arrives-at-electoral/>

選挙人がトランプに投票したとしても、まだ、上・下院の議員がその投票を問題視し、それは議事の遅延か、議会による調査、そして法的問題へと発展するだろう。

ここに、選挙人団 (electoral college) の一般手続きと特定事項について、National Archives and Records Administration の説明による、詳細を述べておく。

<https://www.archives.gov/federal-register/electoral-college/faq.html>

<https://www.archives.gov/federal-register/electoral-college/key-dates.html>

ネオコンたちは、アメリカの選挙民の内部では純粋な支持を得ていないが、議会のかなりの部分に対して、また、彼らに関連する主流メディアの論説陣に対して、強い影響力をもっている。Robert Kagan, Max Boot, またワシントン・ポストの論説委員など、多くの主導的なネオコンや、戦争タカ派が、選挙キャンペーン中に、クリントンに会いにやってきた。クリントンは、Lindsay Graham や Sasse や Flake のような共和党の議会名士と共に、選挙運動広告さえやっている。<http://edition.cnn.com/2016/09/10/politics/hillary-clinton-ad-republicans-donald-trump/index.html>

上下両院の大多数は、もし後押しが突きが変われば、反トランプ側に寝返ることは十分に考えられる。しかし結果はどうなっても、厳しい法的問題が持ち上がることは確実で、この訴訟は最高裁にまで持ち込まれるものと私は予測する。

法的なたわごとに代わるものとして、トランプの就任が、オバマの情報共同体への命令によって、延期される可能性がある。これは1月20日までに、ロシアの選挙介入について正式な調査を行うためである。就任式は公的に決まったものではない！ ポイントはこういうことである——

<https://foreignpolicy.com/2016/12/14/trumps-war-against-intelligence/>

2016年選挙プロセスについて、ロシアについて言われていることの“十分な調査”を命ずることによって、オバマ大統領は本質的に、トランプを大統領執務室へ入れることになる選挙の有効性についての分析的判断を、情報共同体に求めている。

議会の“妥協”は、情報共同体の結果を待って、その上で、トランプを大統領として確定する前に、それを議論することであり得る。「国家情報会議」が曖昧なのはよく知られたことなので、そこから何の結果も出てこないであろう。そこで次期副大統領が、実行大統領として任に就くであろう——

<https://www.archives.gov/federal-register/electoral-college/faq.html#pefails2qualify>

もしトランプ選挙をめぐる議会、ないし法的プロセスが遅滞するならば、それは長い期間に及ぶであろう。有効なワシントンの決まりは、実行大統領 Pence とはうまくやっていくが、トランプはどんな政府の問題についても、公的に発言はできないだろう。（そのときには、クリントンが実行副大統領になるか、新しい大統領の資格を得ることがありうるか？）

メディアの介入は、反トランプ側にとっては強力な味方である。

しかし、まず忘れないでほしいことは、ロシアは、DNC（民主党全国委員会）や Podesta（ヒラリーの選挙本部長、Pizzagate の中心人物）や他のリーク、またウィキリークスのような、いろんな手段による E メールの公開とは、何の関係もないということ、その公的な証拠はゼロだということである。

Craig Murry は、これらはハッキングでなく、インサイダーのリークであることは確かであり、リークした人物（または団体）を彼は知っていると言っている。実際、彼は現在、その E メールが、ワシントンを訪問中に、彼に手渡されたと言っている。高度な技術的知識をもつ元 NSA 高官 William Binney をはじめとする、元情報局の職員たちが、一致して、ハッキングのストーリーは虚偽だと言っている。

<https://www.craigmurray.org.uk/archives/2016/12/cias-absence-conviction/>

<http://www.dailymail.co.uk/news/article-4034038/Ex-British-ambassador-WikiLeaks-operative-claims-Russia-did-NOT-provide-Clinton-emails-handed-D-C-park->

intermediary-disgusted-Democratic-insiders.html#comments

<https://consortiumnews.com/2016/12/12/us-intel-vets-dispute-russia-hacking-claims/>

これまでに我々が聞いたこと、見たことは、流言であり、証拠があるとされているにすぎない。経験をもつ IT のプロとしての私にとっては、この言い分は技術的に嗤うべきものであり、マリーがここで説明している通りである。<http://www.nbcnews.com/news/us-news/u-s-officials-putin-personally-involved-u-s-election-hack-n696146> もし主張されているハッキングが、そもそも起こったのであれば、言われている方法は、あまりにも一般的なもので、誰にでもそれはできたであろう。“ロシアがやった”証拠として主張されているもので、技術的に半分も信用可能な、ただの一つの事実もない。

にもかかわらず、ニューヨーク・タイムズは、大きな一連の記事を載せ、事実ではない CIA の流言と、DNC が雇用し、IT 安全保障会社と自ら宣伝している CrowdStrike による、非専門的な IT の主張に基づいて、“ロシアがやった”と我々に教えている。その前には、ワシントン・ポストが、匿名の官僚によるロシアの介入という大きな主張記事を出した。

<http://www.nytimes.com/2016/12/13/us/politics/russia-hack-election-dnc.html>

https://www.washingtonpost.com/world/national-security/obama-orders-review-of-russian-hacking-during-presidential-campaign/2016/12/09/31d6b300-be2a-11e6-94ac-3d324840106c_story.html

NBC はいま、その上に“情報局官僚”という修飾を付け、プーチン自身がハッキング・キャンペーンをやったと言っている。このストーリーを作った者たちは、昔からのインサイダー売文家 Bill Arkin や Ken Dilanian で、発表前に CIA と物語の調整をすることで知られている。次の物語は、Vladimir Valdimirovich 自身がキーボードを叩いていたことを示している。<http://www.nbcnews.com/news/us-news/u-s-officials-putin-personally-involved-u-s-election-hack-n696146>

<https://theintercept.com/2014/09/04/former-l-times-reporter-cleared-stories-cia-publication/>

多くのニュース・メディアと社説が、これらの“リード”に従っている——

クリントン陣営が進めている、この計略の一部は、元民主党全国委員会の反対党研究コンサルタント、ウクライナ系アメリカ人 Alexandra (別名 Andrea) Chalupa の、次のスレッドによって説明されている——

<https://www.yahoo.com/news/exclusive-hacked-emails-of-dnc-oppo-researcher-point-to-russians-and-wider-penetration-154121061.html>

<https://twitter.com/AndreaChalupa/status/808035087044452352>

Andrea Chalupa @AndreaChalupa Dec 11

1) 選挙人団は 12 月 19 日に会合する。もし選挙人たちが、我々の謀った # State OfEmergency (緊急事態) を無視して、トランプが選ばれるなら、我々は 1 月 6 日に、議会で彼を降ろすことができる。

2) 選挙人団投票への反対意見が出た場合には、それらは書面として、少なくとも 1 名の上院、1 名の下院議員の署名つきで、提出されなければならない。

3) もし反対が出たときには、下院と上院はそれぞれの控室に戻り、連邦法に規定された手続きのもとでの彼らの利点を考えることになる。

大新聞の社説や署名入り記事は、この計略を後押ししている。例えば、長いリストから、ワシントン・ポストの A. J. Dionne の見解を選ぶとすれば——

https://www.washingtonpost.com/opinions/the-electoral-college-should-think-hard-before-handing-trump-the-presidency/2016/12/14/ba3b570e-c23b-11e6-9a51-cd56ea1c2bb7_story.html?utm_term=.0c7ed6b10957

ロシアが積極的に我々の選挙に介入してトランプを勝たせた、という CIA の裁定は、選挙人たちが、自分の独立した権力を行使すべきか否かを考えるための、すぐれた理由である。少なくとも、彼らは CIA の知っていることについて、そして特に、トランプや彼の参謀たちが、選挙運動中にロシアと関わっていた証拠が、あるかどうかについて、ブリーフィングを受けるべきである。

ニューヨーク・タイムズの社説は、トランプが、CIA の繰り広げるおとぎ話を嘲笑しているといつて、嘆いている。 <http://www.nytimes.com/2016/12/15/opinion/donald-trumps-denial-about-russia.html?ref=opinion>

トランプに投票した多くの人々は、もし万一、彼が大統領職を否定されるようなことがあれば、嫌悪感と義憤を爆発させるであろう。彼らの多くは武装して抗議するだろう。万一、クーデタが成功すれば、暴力行動に発展することは必至である。

トランプは、彼の内閣とスタッフに、4 人の元将軍を選んで加入させた。もし騒乱がエスカ

レートしたら、我々は、1992年の軍事論文に書かれているようなシナリオを、ほぼ辿ることになるだろう——Charles J. Dunlap, 「2012年のアメリカの軍事クーデタの起源 (pdf)」
http://strategicstudiesinstitute.army.mil/pubs/parameters/articles/2010winter/dunlap_jr.pdf